

海外安全対策情報（２０１４年４月～６月）

１．社会・治安情勢

本年２月以降、当国では「総会（Plenum）」と呼ばれる市民団体等がBH各地でデモを行うなどの事態に発展している。５月９日には、サラエボで、市民約２００名が集結し、BH連邦政府閣僚の解任等を求め、BH連邦議会前及びBH連邦庁舎前でデモが行われたものの、同デモは、当国警察による厳戒態勢も敷かれ、暴動等には発展せず、事態は平和裏に収束した。

５月中旬に当国を襲った洪水では、当国政府の発表によれば、BH全土で１６名が死亡、６千人余りが自宅から避難を強いられ、１００万人余りが被災したとされ、インフラ整備や農業分野において壊滅的な被害を受けた。５月２０日には、ブルチュコにて洪水で流された内戦時の地雷の１個が爆発したものの、けが人はなかった。

６月中旬には、公共交通機関を運営する会社の従業員が、ストライキやデモ行進を実施し、市内道路が混雑を極める等の事態となった。

２．一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当国では依然として、強盗事件や発砲事件が多く発生している。窃盗被害に関しては、主要観光地に限らず全国で頻繁に発生しており、特に注意が必要である。また、手榴弾や爆弾を実際に使用する爆破事件も散見される。

３．邦人被害事案

- （１）５月中旬、邦人団体ツアー客がモスタル市内を観光後、バッグの中身を確認したところ、財布が盗まれているのに気がついた。同被害邦人の話によると、同じ団体ツアーの他の邦人も財布が盗まれていたとのこと。
- （２）６月上旬、モスタルから電車を利用しサラエボに到着した邦人旅行者が、サラエボ旧市街に向けてトラムに乗車。目的駅で降車しようとした際、後ろから右腕にスーツの上着を掛けた中年男性が体を密着させてきたのに気づき急いで降りようとしたが、降車口に後ろ向きに立っていた中年女性が邪魔になりすぐには降りることができなかった。降車後バッグから携帯電話が盗まれているのに気がついた。

４．邦人以外の被害事案

- （１）４月上旬、午後８時４５分頃、サラエボ市内のHimze Polovine通りで発砲事件が発生。男性１人が脚を負傷した。
- （２）４月上旬、午後８時１５分頃、サラエボ市内のAntuna Branka Simica通りで若い男性がナイフで刺される事件が発生。
- （３）４月上旬、夕方、ビハチ市内の路上で５５歳の女性は何者かに襲われ、現金や携

携帯電話が入ったハンドバッグを奪われる事件が発生。犯人は犯行の際、女性を殴り、頭部を負傷させた。

- (4) 4月中旬、バニャ・ルカ市内の Grcka 通りにある「Retirees Club」で発砲事件が発生。犯人の男は別の男性と口論となり、拳銃を発砲したと見られている。けが人はいなかった。
- (5) 4月中旬、夕方、ボサンスカ・グラディシュカ市内の Park Slobode 通りでドイツ人が三人組の男に襲われる路上強盗事件が発生。犯人らはドイツ人から財布及び携帯電話を奪った。
- (6) 4月下旬、夕方、サラエボ市内の Alipasina 通りで同通りを歩いていたスロベニア人が2人組の何者かに襲われる路上強盗事件が発生。犯人らはナイフで被害者を脅し、携帯電話及び現金を奪って現場から逃走した。
- (7) 5月上旬、午前11時頃、サラエボ市内の Sulejmana Filipovica 通りを歩いていた男性が、2人組に襲われ、ナイフで刺される事件が発生。被害者はコシェボ大学病院で手当を受けた。
- (8) 5月上旬、午後1時30分頃、サラエボ市内の Jukiceva 通りにある民家で、居住者である老人が2人組の何者かに暴行を受ける事件が発生。隣人の話によれば、2人組は度々被害者宅を訪れており、事件日は10KMを要求してきたが、持っていないと言ったところ、暴行を受けた。
- (9) 5月上旬、午後3時20分、トゥズラ市内で2人組の男が別の男性に拳銃を発砲する事件が発生。けが人はいなかった。被害者男性は麻薬密売者で過去に多くの犯罪履歴があった。
- (10) 5月下旬、朝方、バシチャルシヤで傷害事件が発生。被害者は病院で治療を受け、警察が捜査している。
- (11) 6月上旬、深夜、サラエボ市内の Trg Heroja 通りにある喫茶店「Anshy」付近で、傷害事件が発生。数人が喧嘩となり銃を発砲し、1名が負傷、2名が逮捕された。
- (12) 6月上旬、サラエボ市内を走る路線バス内でバスの運転手と乗客が口論となり、帰宅のため乗り合わせていた別の男性が仲裁に入ったところ、乗客が持っていたナイフで男性を刺し、その後男性は死亡した。
- (13) 6月上旬、午後11時15分頃、サラエボ市内の X Transverzala 通りで数人がグループで暴行を加えナイフで刺す傷害事件が発生。被害者は病院で生命維持装置による延命がなされている。
- (14) 6月中旬、深夜1時40分頃、サラエボ市内で若者2グループが諍いを起こし、銃を発砲し3名が負傷。警察の調べにより、負傷者を含む3名が逮捕された。
- (15) 6月中旬、午後10時頃、サラエボ市内の Obala Kulina bana 通り、ラテン橋にあるトラム乗り場付近で発砲事件が発生。二人組の犯人は当初、この付近で車を窃盗しようとしていたが、犯行現場を目撃され逃走する際に発砲。トラム乗り場に

た女性二人に命中した。

- (16) 6月下旬、午後10時頃、ゼニツァ市にある喫茶店「Code」で発砲事件が発生。
2人が負傷し、病院へ搬送された。

5. テロ・爆弾事件発生状況

- (1) 4月中旬、午後11時50分頃、旧市街地区内にある民家の前庭に手榴弾が投げ込まれる、爆破事件が発生。けが人はいなかったが、建物に損害が生じた。
- (2) 4月下旬、深夜、サラエボ市にある民家の庭に手榴弾が投げ込まれる、爆破事件が発生。けが人はいなかった。
- (3) 5月上旬、午前2時頃、モスタル市内にある民家の庭に爆発物が投げ込まれる、爆破事件が発生。けが人はいなかったが、庭に駐車していた車両が損傷した。
- (4) 5月中旬、午後3時30分頃、ベリカ・クラドゥシャ市内にあるナイトクラブ「EX」
で爆破事件が発生し、32人が負傷した。犯人の男はクラブ内で別の客と口論していた。
- (5) 5月中旬、午後11時30分頃、RS議員宅に何者かが手榴弾を投げ込む、爆破事件が発生。爆発による被害は軽微なものであった。
- (6) 6月上旬、午前4時頃、モスタル市のMladena Balorde通りにある食料品店「Tajma」前で、爆破事件が発生。この爆破により付近に駐車していた車の窓ガラスが割れた。
- (7) 6月中旬、午前1時30分頃、パレ市の警察官宅で爆破事件が発生。この事件による負傷者はいなかった。
- (8) 6月中旬、午後10時頃、サラエボ市にある民家に手榴弾が投げ込まれる爆破事件が発生。負傷者はなく、警察によるその後の捜査で、犯人は逮捕された。

6. 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。